

どうぶつこうえん  
ニュース No.78  
2010 winter

おかげさまで千葉市動物公園は開園25周年  
25<sup>th</sup> Anniversary 1985-2010  
Chiba Zoological Park

# Topics

## 「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」を開催して

「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」は障害のある子どもたちとご家族を動物園に招待し、楽しいひと時を過ごしてもらう国際的なイベントです（平成22年7月1日現在、世界36カ国217の動物園・水族館が実施し、国内では当園が10園館目となります）。

この夏は例年にない猛暑ということもあって開催日の8月23日も暑い日となりましたが、たくさんのご家族が来園されました。ご家族で楽しめるように園内には様々なイベントコーナーが設けられました。子どもたちはスタンプラリーを回って好きな景品をもらい、バルーンアートコーナーでは、かわいい動物の風船をもらって喜んでいました。科学館ではボランティアによるパネルシアターを見たり、オーケストラによる本格的な演奏に皆さん聞き入っていました。その他にもジャグリング、チアリーディングなどのコーナーでは、ボランティアの躍動感あふれる動きに感心するご家族もいたほどです。動物の派生物（動物の毛、糞、羽など）コーナーでは、子どもたちが興味津々に動物の糞を触ってみたり、動物のお食事タイムではキリン、ゾウなどの食事シーンを間近で見たりして、皆さん、楽しい時間を過ごしていただけたようです。関係者にとってはあわ



ただしい1日でしたが、お帰りの際、笑顔で帰る参加者を見てほっと安心しました。

このイベントは職員だけでなく、多くのボランティアの方々（淑徳大学等）、協賛企業様のご協力により実施することができました。ありがとうございました。

水上 恭男 (MIZUKAMI YASUO)

## 目次

CONTENTS

表紙【フレミッシュジャイアント】	①
トピックス	
【ドリームナイト・アット・ザ・ズー】	②
動物たちの暑さ対策	③
水禽池リニューアルオープン	④
開園以来の動物たち	
【ジェフロイクモザル】	④
秋の講演会【江戸絵画と動物】	⑤
めざせ！動物公園博士	⑤
飼育よもやま話	⑥
動物公園の植物	⑥
動物公園日誌から[10.7/1～10.9/30]	⑦
サポーター会員募集のお知らせ	⑧
Information	⑧

## 表紙の動物説明 フレミッシュジャイアント

ウサギ目は、ナキウサギ科1属17種、ウサギ科11属42種に分類されます。上記のうち日本在来の野生種は、ナキウサギ科のエゾナキウサギとウサギ科アマミノクロウサギ属アマミノクロウサギとノウサギ属のニホンノウサギ（6亜種）です。では、カイウサギとはというと、アナウサギ属アナウサギに分類され、原産地はイベリア半島とアフリカ西北部で、その後世界中の多くの国に移入され、品種改良されました。

日本には、16世紀にオランダ人が伝え飼い広めたとされています。江戸時代に普及して、欧米から色々な品種のウサギが輸入され日本での改良品種が、日本白色種です。現在約150品種が知られています。

表紙の写真は、フレミッシュジャイアントと言われ、カイウサギの品種の中では最大で、体重は11kgになります。原産地はフランスです。また、生態ですがアナウサギは、夜行性で社会性が強く、きびしい順位づけがあります。繁殖のための大きな巣穴のある複雑なトンネルを地下に掘ります。メスは、見慣れない子どもを攻撃し、時には殺してしまうこともあります。一方オスは、子どもをメスから守ります。

小林 正典 (KOBAYASHI MASANORI)

撮影：宮川 千尋 (MIYAKAWA CHIHIRO)

## 動物飼育数

平成22年9月末現在の飼育数

哺乳類 65種432点

鳥類 71種303点

爬虫類 6種 29点

両生類 1種 2点

魚類 1種 1点

総計 144種767点

# 動物たちの暑さ対策

今年の夏は113年ぶりと言われる猛暑でした。例年ですと本日の電力使用量が報道され節電のお願いが出るところですが、さすがに命にかかわることあつては節電より冷房の使用のお願いのほうが優先されました。動物公園でも一部の動物を除き冷房設備はありません。どうやって今年の猛暑をしのいだのかいくつかご紹介します。



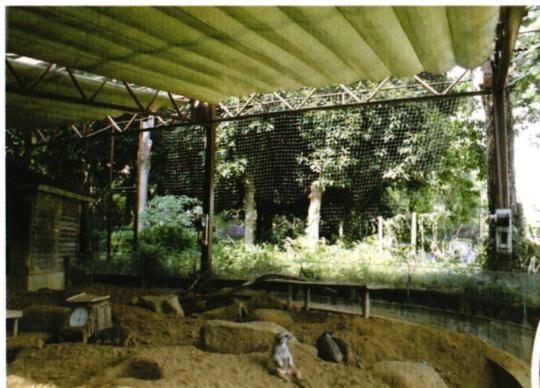
## ゾウ

ゾウの展示場にはプールもあるのですが、これが一番のお気に入りでした。



## キリンたち

みんな木の下に入ってじっとしていました。



## ミーアキャット

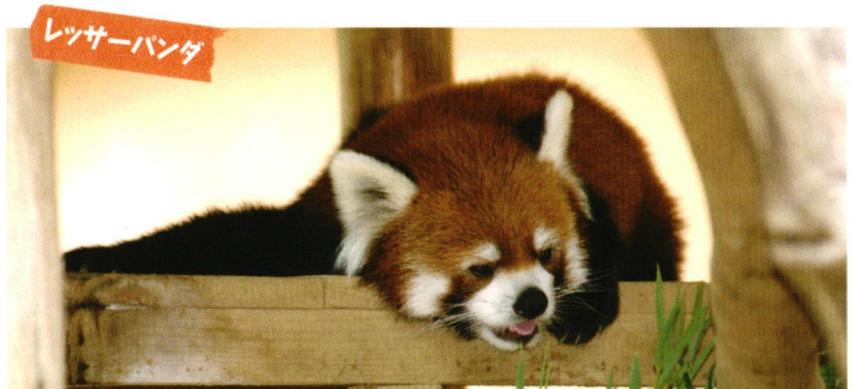
◀ 本来は雨対策用のひさしなのですが、日よけとして使用しました。

▶ 土にお腹をつけて涼んでいるのですが、よくこの姿をみかけました。



## ニシゴリラ

「やってらんねーや」と言ったとか言わなかったとか。



## レッサーパンダ



## アンボルトペンギン

スプリンクラーから水を出すおなじみの光景です。



## 人間の子どもたち

人間の子どもたちにはこれが一番でした。

## 水禽池リニューアルオープン☆

10月19日、水禽池が移転し、リニューアルオープンしました。レストランのななめ前にあったタンチョウ池が、新しい水禽池です（タンチョウは、ちょっと狭くなってしまいましたが、前と同じ場所にいます）。

新しい水禽池はフライングケージとなり、全面フェンスとネットで覆われています。そして、水禽池の名の通りカモやガンといった、水鳥と一般に呼ばれる鳥たちを展示しています。

フェンスとネットで覆われていると少しだけ見づらいですが、良いこともあります。それは、フライングケージという名の通り、鳥が飛ぶ姿を見ることができるのです。

見た目は小さなカモやガン達ですが、翼を広げて飛翔する姿は想像よりも大きく、そして美しいです。しかし、残念ながらいつもいつも飛んでくれるわけではありませんが、その姿は一見の価値アリですので、ぜひじっと待ってみてください。

そして、お待ちの間に水禽達の関係に注目してみてください。

工事が終わり、前にいた場所からお引っ越ししてからまだ日の浅い水禽達は、自分の落ち着く場所を探しているみたいです。当然、よく落ち着ける場所は人気が高く、ケンカになることもあります。日にちがたてば落ち着いてしまうでしょうが、小競り合いはあるかもしれません。



また、だいぶすみっこの方に陣取ることを決めたらしいとあるカモのメスを、オスが真ん中の方へ連れて行こうと呼びに来たり…という微笑ましいシーンを目撃したこともあります。

あの種類のカモはあの種類のカモと仲がいいらしい、とか、水禽達にとってはあの場所はお気に入りらしい、とか、あのカモは他のカモと違って肢のつき方が少し違う！とか。普段は見過ごしがちなことでも、よくよく観察してみると、意外と面白い発見が見つかるものです。

お昼ごはんをレストランで食べた後、ひなたぼっこをしつつ水禽達の間模様ならぬ水禽模様を観察してみませんか？

面白い発見をしたらぜひ、飼育係に教えてくださいね！

石田 郁貴 (ISHIDA YUKI)

## 開園以来の動物たち ジェフロイクモザル

当園のジェフロイクモザルは1985年3月29日に、日本モンキーセンターより来園して今年で、飼育期間が、25年になります。モンキーセンターから、オス（ライズ）とメス（スイング）の2匹でやってきましたが、残念なことに今年の5月7日に、メス（スイング）が、子宮ガンのために他界してしまいました。このメスはなかなか、子供に恵まれず、1996年9月に初めて、1頭のメスを出産してくれました。その後も当時の飼育担当者は、これをきっかけにして2回3回と出産してくれるのではと期待していたのですが出産は、これ1回きりでした。このメスは出産の数年後より生理のたびに多量の出血をするようになり、レントゲン検査の結果、子宮にガンがあることがわかりましたが、このときすでに高齢だったために担当獣医と相談して、手術を行わないで体調に注意しながら飼育管理していくことにしましたが当園に来て25年目に死亡してしまいました。

死亡してしまったメスは気が強く、飼育担当者に自分から近づいてくることはなく展示場の網の間から手を出して攻撃してくるような個体でしたが、オスは、朝、獣舎の扉の柵に飛びついてきて「キィキィキィ」と鳴いて



近づいてきてくれます。近くに来て遊んでくれとでも言っているようで、扉に近づくと柵の間から手を出してきます。飼育担当者やお客さんが展示場に近づくと「キィキィキィ」と鳴いて展示場の網の近くまで来てくれますので、よく観察することができます。サル比較舎の中で、マンドリルの次ぐらいに人気があると思います。現在はオスが1頭だけになってしまい少し寂しくなっていました。ジェフロイクモザルは、南米のメキシコからパナマに生息していて、手の親指はなく、また、長い尾には指紋に相当する尾紋と呼ばれているしわがあり、木の枝をつかんで体を支えることもできます。長い手足と長い尾を使い展示場内を動く姿を見にきてください。

鈴木 克典 (SUZUKI KATSUNORI)

# 秋の講演会 江戸絵画と動物

10月24日、千葉市美術館の田辺昌子さんをお招きして、千葉市美術館のコレクションの中から「江戸絵画と動物」と題して動物の登場する絵画を紹介していただきました。

日本画というと浮世絵、屏風、掛け軸などに見られる写実的なものが連想されます。動物を題材とした絵も、牛、猿、鶴、鳥など国内にいた動物が自然の中での、ありのままの姿が多く描かれています。

最初は一部の人だけのものだった動物の絵も、江戸時代になると一般大衆向けに描かれるようになりました。愛玩動物として、身近にいた猫は擬人化されることもあり、現在の4コマまんが的にかわいく描かれた物もありました。犬は脇役というか、画面の端にノラ犬っぽく描かれている作品も残っています。

また、日本にいない動物が描かれることもありました。明や清との貿易が始まり、ゾウ、トラ、ヒョウ、クジャクが献上品として入ってくると、これらの絵も描かれるよう

になりました。実際に観察する機会がなかったのでしょうか、それともまだ見たことのない動物への畏怖を出すためだったのか、ずいぶんとおどろおどろしい感じのゾウなども描かれています（写真）。トラは中国にいて実物や絵も日本に入ってきていたはずなのに、写実的でない、空想で描かれたようなトラの絵も残っています。変わったところでは、多摩川の「タマちゃん」みたいに、北から流れ着いたと思われるアシカも描かれています。

このように当時の絵からは、古くから自然とその中で暮らす動物達を愛でてきた、当時の人々の気持ちが伝わってくるようです。

落合芳幾「写真鏡 大象図」  
万延2（1861）年  
大判錦絵



## めざせ！動物公園博士

「ハゴロモツルは、翼の一部が長く、飛ぶとその羽が天女の羽衣のように見えることからこの名前がつけました。では、このツルの生息地はどこでしょうか？」

このような動物に関する問題をはじめ園内の植物、遊園地の乗り物など様々な問題を4クラスに分け、25問を制限時間25分で解答してもらおうイベント「開園25周年記念 動物公園検定」を8月14日に開催しました。みなさんはご存じないかもしれませんが、「動物公園大好き！」「動物公園の事なら何でも知ってるよ」という方が結構いるんですよ。その方達は、「あ～そうだったんだ」と動物公園の関係者も妙に納得してしまうような知識を持っている方が多く、「なんでこんなに詳しいんだらう？」と思ってしまう位、こちらがタジタジになってしまう事を聞いてくる方が結構いらっしやいます。

では、その方達の知識を持って、どこまで動物公園のことを知っているのかを試す絶好の機会という事で、皆さんに検定に挑戦してもらいましょうという事になりました。

検定の問題を作成するにあたって、「大人には簡単すぎる」とか「この問題は子供たちには難しすぎるのではないか」と試行錯誤を繰り返して、動物や植物、園内の施設に関する問題を作りました。

そして検定当日、皆さんあまり緊張する様子も見せずに、淡々と検定に挑んでいます。中には25分も必要ないと言わんばかりに、筆記用具を置き、時間をもてあましていく方もいるくらいでした。これは、問題が簡単すぎたのではないが、もう少し難しい問題にすればよかったと考えていました。

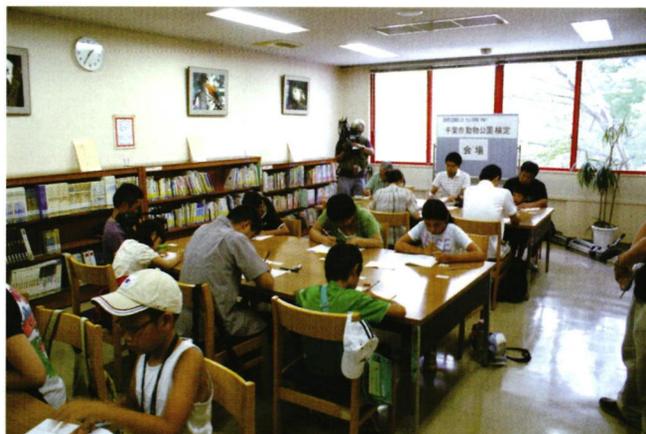
そして採点結果は…やはり動物公園検定に挑戦してくるだけあって、高得点の連発！しかも小学生のクラスでも高得点が出

たことにはびっくりしてしまいました。動物公園大好きと公言している方々には、少し問題が簡単すぎたんだとあらためて感じたと同時に、次の機会にはもう少しひねった問題で皆さんに挑戦してみたいと思いました。

最後に、動物公園もおかげさまで開園25年になりました。これも来園して下さった皆様のおかげと深く感謝しております。これからも、動物公園に対してさらなるご愛顧のほどよろしくお願い致します。

ちなみに、文章の最初にあった問題の答えは…動物公園に来園してお確かめ下さい。

平木 利幸 (HIRAKI TOSHIYUKI)





## 飼育よもやま話

### 動物公園と口蹄疫

動物公園の獣医師の最も大事な仕事は、動物の健康管理、それと来園者の方を含めた人の衛生対策です。なかでも、人と動物の共通感染症の発生には気をつけています。

2010年、動物園だけでなく、日本中の動物業界を巻き込む病気が発生しました。2010年の春から夏にかけて宮崎県で発生した口蹄疫です。口蹄疫はウイルスによって起こる病気で、ヒトに感染することはない、主に偶蹄類に感染します。感染した動物が死ぬことはあまりありませんが、感染力が非常に強く、あっという間に広範囲に広がってしまいます。感染の拡大を防ぐため、宮崎県では多くのウシやブタが殺処分されました。

動物公園ではウシやブタ以外にもキリンやトナカイなど様々な偶蹄類を飼育していますし、偶蹄類以外にも感染する可能性のある動物がいます。また、動物公園は多くの方々が訪れる場所ですので、病気が持ち込まれたり、持ち出されたりする可能性があります。万が一、動物公園の動物が口蹄疫にかかると、閉園しなければならない可能性もありました。そのため、動物公園では普段使っていた消毒薬を、口蹄疫ウイルスに効果のあるものに変更したり、来園者の方々にヤギやヒツジのふれあい広場に入ってもらう前に消毒薬の染みたマットを通して入ってもらったりするようにして、感染の防止に努めました。

ウシやブタなど約28万頭が処分され、多大な被害もたらされましたが、関係各位の努力によって、宮崎県の外に感染が広がることはありませんでした。今後も口蹄疫や新型インフルエンザなど様々な感染症の発生が予想されます。動物公園では以前から病気が持ち込まれないように、それぞれの動物舎に消毒液の入った踏み込み槽を設置しています。また、私たちが感染症にかからないようにするためには、手洗いやうがいなど基本的な衛生対策が重要です。みなさんも動物公園に来て動物に触ったら、きちんと手洗いをしてくださいね。

堀 泰洋 (HORI YASUHIRO)



子ども動物園内の手洗い場



## 動物公園の植物

### マテバシイ (ブナ科マテバシイ属)

マテバシイはブナ科の常緑高木で、本州、四国、九州の暖地から沖縄、亜熱帯にわたって分布する。高さ10~15m、直径1mに達する日本固有の種で、萌芽性が強く株立ちになることが多い木です。樹皮はほぼ平滑の暗褐色灰色で、葉は枝先に集中してつき、光沢があり厚く濃緑色で長さ10~20cmにもなります。葉の縁には鋸歯はなく果実は長楕円形で殻斗(かくと)に浅く包まれ、翌年の秋に熟し「どんぐり」となり、縄文時代には貴重な食料源でした。

どんぐりが実る樹種には、多種多様な種類の形があり、その年の秋に実る(コナラ、シラカシ、アラカシなど)ものと次の年の秋に実る(マテバシイ、スタジイ、クヌギなど)ものがあり、濁音がつく樹種は2年間で実になると言われています。

今年は、夏の猛暑の影響もあり、山奥で餌にしていたどんぐり不作で、里山のクリ・果実等を求め「熊」の出没が新聞報道されましたが、このどんぐりは野生動物の好物にもなっています。

動物公園の樹木リストでは主要木として373本が植樹され園内の景観樹のひとつになっている。市内の街路樹本数でもイチョウに次ぐ2番目の4,306本が植樹されています。

用途材としては、材質が硬いことから薪炭材として優れ、農具の柄やその他の器具材、シイタケのほだ木などにも使用されています。また、公園、生垣や屋敷林などの造園・緑化樹として防風、防火木として用途の多い樹木です。

中島 一 (NAKAJIMA HAJIME)





# 動物公園日誌から

## '10年7月1日～'10年9月30日

- 7月1日 職場体験(聖心高等学校、千種中学校、千城台西中学校)。
- 7月2日 レッサーパンダ(1頭)、繁殖(23:50頃)。  
ベニバシガモ、水のはじきが悪いため、トキ舎へ移動する。
- 7月3日 レッサーパンダ(1頭)、繁殖(0:28頃)。  
飼育係のおたのしみDay、実施(テナガザル)。
- 7月4日 ヒワコンゴウインコ、2羽のひな、巣箱より顔を出す。
- 7月5日 ゴリラ(モンタ)、朝より覇気がなく糞も少なめ。日中は寝ている時間が多い。夕方はミルクとヨーグルト以外は食べない。  
クロミミマーモセット、ペアの組み換えを行う。
- 7月6日 ゴリラ(モンタ)、朝までに小松菜、キュウリ以外は食べている。いつもの餌に、風邪薬入りヨーグルト、リンゴジュース、パイナップルを与える。日中は屋内オープンとする。  
ダチョウ(雄)、ここ数日、攻撃性がかなり強い。足を出そうとしてくる時もあるので出入りは当面2名で行う。
- 7月8日 ルリゴシボタンインコ、くちばしの過長部を切除する。
- 7月9日 ゴリラ(モンタ)、食欲ほぼ良くなる。
- 7月10日 パラワンコクジャク(雌)、死亡。へビに絞められたと思われる。  
フクロウ(1羽)、保護。
- 7月11日 カンムリツル、雌のダチョウに追われて翼を踏まれたと来園者より通報がある。捕獲したところ左の翼骨折していたため、固定し総合獣舎で飼育する。
- 7月12日 アメリカバイソン(雄仔)、去勢手術中の誤嚥により死亡。
- 7月13日 レッサーパンダ(チチチ)、よく巣箱の外にいる。
- 7月16日 ショウガラゴ(雄1、雌1)、長野市茶臼山動物園へ搬出する。  
コツメカワウソ、昨日夕方から朝にかけて4頭出産。終日オープンとする。父親はほとんど巣箱から離れないので仔の頭数のみ確認する。
- 7月20日 フタユビナマケモノ、午後には右側ダクトの上で直射日光が当たり呼吸が速かったため、左側に移動させる。  
キングペンギン、ケープペンギン、全頭にマラリア予防薬を経口投与する。
- 7月21日 サマースクール実施(7月23日まで)。  
スローロリス、亜種判定のためサンプル(毛)を採取する。
- 7月22日 ゴリラ(ローラ)、収容後、換気扇をつけると驚く。  
キリン(竜王)の動きが少し悪いので16:00に収容。
- 7月23日 キリン(竜王)、食欲が少し無く、他の個体より呼吸がはやい。  
ソウ(雄)、パドックで大きなコンクリートの塊を掘り出したため、11:30に収容する。
- 7月24日 キリン(竜王)、室内で扇風機で風を通す。呼吸も安定する。
- 7月27日 ヒワコンゴウインコ、雄親が担当者にかなり攻撃をしてくる。
- 7月28日 ラマ(ミケ)、放飼場で横になり起きられないので、持ち上げて立たせ、すぐに収容する。
- 7月30日 スローロリス(No.16)、食欲不振のため、補液を行う。
- 7月31日 シロオリックス、朝、出産していたが仔はすでに死亡していた。  
アジアソウ、本日より室内床塗装工事のため夜間パドック。
- 8月2日 コアリクイ、No.1とNo.5を展示場で同居。No.1がNo.5を追い回し、引きずりおろして攻撃するので、30分で分ける。  
パタスザル(雌、シェル)、昼過ぎに脱肛していた。捕獲し入院。  
コツメカワウソ、朝、仔が3頭巣箱の外にいた。
- 8月4日 **ヤギ(2頭)、繁殖。**
- 8月8日 夏休みの宿題に役立つ動物のお話1
- 8月9日 夕方の交尾を確認する。  
雄のクチバシと足の色、前日よりピンク色が強い。夕方に担当に威嚇してくるので2名で収容。
- 8月10日 カラフトフクロウ、展示場の止まり木を追加する。
- 8月12日 レッサーパンダ、子どもたちの性別判定を行う。2頭とも雄と思われる。
- 8月14日 パタスザル(雌、シェル)、退院する。
- 8月15日 **夏休みの宿題に役立つ動物のお話2**
- 8月16日 パタスザル、午後、全頭を一緒にする。  
しばらくシェルを娘が追い回すが、夕



- 8月17日 シロオリックス(雌)、朝、口の左側より舌を出しており、目の輝きもない。左耳がたれ気味、左側を下にやや斜頸気味。  
チモシー乾草を食べている。夕方、強肝剤を投与。
- 8月20日 シロオリックス(雌)、昨日と同じ症状だが、斜頸が大きくなる。  
8月22日 強肝剤を朝投与、抗生剤、ステロイド剤を吹き矢で投与。  
レッサーパンダ(チチチ)、仔を一頭くわえ、放飼場へ出る。  
シバヤギ(預かり2頭)、NPO法人都川の環境を考える会へ返却。
- 8月23日 ドリームナイト・アット・ザ・ズーを開催。  
シロオリックス(雌)、斜頸は少し治まっているが、左側から舌が出ていた。食欲はあり、糞量は少ないが正常。抗生剤を吹き矢で投与。
- 8月26日 ホンドザル、ミズバショウ・ネズコ・ニンニク他がもめている。  
8月27日 収容に時間がかかる。  
8月28日 レッサーパンダ(仔)、1頭が巣箱から出ていた。  
8月30日 ZOOキッズデー  
シロオリックス(雌)、斜頸が以前と同じようになり、夜間円状に歩き回っていた様子でわらが粉々になっていた。時々、円状に歩く。
- 9月2日 キンカジュウ(雌1)、サンシャイン国際水族館へ搬出。  
エリマキキツネザル(雄1)、アメリカオシ(雄1、雌2)、アヒル(雄1、雌1)、サンシャイン国際水族館より搬入。  
ムフロコ、雄同士の角が絡み合い取れなくなる。収容後、捕獲しはずす。
- 9月8日 ヒワコンゴウインコ(雛)、1羽死亡。
- 9月9日 ハートマンヤマシマウマ、展示場へ下痢。
- 9月10日 ハートマンヤマシマウマ、朝寝室に排便なし。昨日の餌は完食していた。腹部マッサージ等を行う。
- 9月11日 コツメカワウソ、仔の1頭が鶏頭をかじっていた。  
ハートマンヤマシマウマ、排便なく食欲もない。吹き矢で投薬。
- 9月12日 ハートマンヤマシマウマ、夜間乾草を少し食べる。通路を歩かせる。吹き矢で投薬。  
ワンポイントウォッチング(カンガルー)
- 9月13日 ミナミコアリクイ(雌)、埼玉県こども動物自然公園へ搬出。  
カビバラ(雌)、埼玉県こども動物自然公園より搬入。
- 9月14日 コツメカワウソ、仔全頭を初めて大人と一緒に、朝放飼場に出る。ドジョウも舎内に運び込んでもらい食べている。  
シロオリックス(雌)、旋回が少なくなる。
- 9月16日 レッサーパンダ(チイタ)、アメリカビーバー(雄)、浜松市動物園へ搬出。  
ハートマンヤマシマウマ、朝排便あり。
- 9月18日 コツメカワウソ、朝から、前頭締め出す。子どもよく泳いでいる。  
シロオリックス(雌)、11:00から13:00まで通路に出す。やや、足もとがおぼつかない時もあるが、まっすぐに歩いている。チモシー乾草をよく食す。  
ハートマンヤマシマウマ、死亡。
- 敬老の日イベント
- 9月21日 シバヤギ(雄1、雌1)、長野市茶臼山動物園より新着。
- 9月23日 動物愛護週間イベント
- 9月24日 シロオリックス(雌)、斜頸は今までより良くなってきていると思え、少し肥えてきている。
- 9月27日 **カビバラ(雌)、検査明け。**
- 9月29日 カビバラ、9:30から11:00まで放飼場でペアリング。マウントを繰り返す。



## 編集後記

今年は、猛暑の影響が入園者を直撃、行楽の秋には、市民の日の無料開放やZOOフェスタ2010で賑わいを取り戻したものの、前年並みの入園者確保は頭の痛いところ。まもなく、子どもたちに好評の落葉プールが始まります。来年の干支のウサギを年賀状用の写真撮影にと、また、今年誕生のレッサーパンダの「コウタ」、「エイタ」をぜひ見ようと来園される方もおられます。少しでも多くの方々の来園をお待ちしております。動物たちもこれから迎える寒さへの準備も始まりました。寒さをしのぐには、動物科学館の中の動物やクリスマス、お正月と季節にちなんだクラブで楽しんでもいただければと思います。年明けは、1月2日からの開園です。ぜひ冬の動物公園へもお出掛け下さい。

どうぶつこうえんニュース編集委員



デマレルーセットオオコウモリ

動物取扱業者標識	
①氏名又は名称	千葉市
②事業所の名称	千葉市動物公園
③事業所の所在地	千葉市若葉区源町280
④動物取扱業の種別	展示
⑤登録番号	第50015号
⑥登録年月日	平成19年7月30日
⑦有効期間の末日	平成24年7月29日
⑧動物取扱責任者	飼育課長 小林 正典



## サポーター会員募集

(財)千葉市動物公園協会では、動物に関する知識と動物愛護の精神を普及することを目的に「サポーター会員」を募集いたします。

年会費(入会日~翌年入会月末)

個人会員 1口 1,000円

法人会員 1口 10,000円

オリジナルグッズ  
プレゼント  
サポーターズデイに  
無料ご招待

お問い合わせは ☎043-252-1111



## Information

### 平成22年12月~平成23年2月の催し物一覧

12月5日 日 ワンポイントウォッチング⑦(カオムラサキランゲール)

12月19日 日 クリスマスシアター

1月2日 日・1月3日 月 お年玉プレゼント

1月2日 日 干支の引継ぎ式

2月6日 日 バードウォッチング **事前申込制**

2月13日 日 バレンタインディミニ音楽会

※1月3日(月)は臨時開園します。

詳しくは <http://www.chibazoo.net/> どうぞ

### 法人サポーター会員 (順不同)

- 千星会
- 西原工業(株)
- (社)千葉市観光協会
- (株)西原テクノサービス東関東支店
- (株)さわらび
- 大西総業(株)
- 千葉都市モノレール(株)
- (株)動物公園協会の会
- 千葉県米穀(株)
- ジェノスグループ(株)
- エバタ株式会社
- (財)千葉市国際交流協会
- (株)ニッセイアド
- 久野インターナショナル
- (有)カンダ事務機
- 関東フローズン(株)千葉支店
- (株)新星医薬商事
- (株)小塚組
- 中田屋株式会社 千葉工場
- 千葉商工会議所
- (株)加藤緑花土木
- (株)和光物産商会
- ノザキ建工(株)
- 利根ココロラボトリング(株)
- 千年杉建設(株)
- (株)石綿竹松商店
- 日東パシフィックベンディング(株)
- (株)シューエイ商行
- (株)久世
- 日本不動産管理(株)千葉支社
- (株)昭和の森協会の会

(22年11月15日現在)

どうぶつこうえんニュース第78号  
平成22年12月1日発行

編集  
発行

千葉市動物公園 <http://www.city.chiba.jp/zoo/>  
(財)千葉市動物公園協会 <http://www.chibazoo.net/>

【総合案内】☎043-252-1111

〒264-0037 千葉市若葉区源町280番地 280 Minamoto-cho Wakabaku Chiba-city Japan.